

り、新たな道につながるものと信じております。

私は、今の時代を生かされるものの一人として、また、町民からまちづくりを託されたトップとしての責任において、この厳しい時代にあっても、困難から逃げることなく、果敢に挑戦し、常に謙虚な姿勢で町政と向き合い、まちづくりの主役である町民の思いに寄り添い、思いやりのある行政を職員とともに全力で取り組んでまいります。

## Ⅱ 町政の基本方針

はじめに、町政運営に対する基本姿勢について申し上げます。

町の政策の柱である「第6次福島町総合計画」で掲げたテーマの「自然と人が織りなす“幸せ実感コンパクトな町”～持続可能なまち『ふくしま』を共に創る～」の実現に向けて、全力で政策の実現に取り組んでまいります。

町政に臨む基本姿勢につきましては、第6次福島町総合計画の基本計画および実施計画を基本とし、引き続き、産業振興など町の生産の基盤を成す予算を中心に、子育て支援、高齢者が安心して住み暮らせる政策予算を積極的に措置しております。

高齢化と人口減少が続く中で、各分野において人手不足が顕著となってきており、若い人たちがまちづくりに参画する体制の構築が急がれており、次の時代を担う人材育成が喫緊の課題となっております。

そのような中であって、福島商業高校に全国から福島町で学びたいと多くの子どもたちが入学しております。今、この子どもたちがまちの新たな活力となり、新たな人財の芽となり大きく育つことが期待されております。

町では、青少年交流センターを人材育成の拠点と位置づけ、若い世代が大いに語り、交流することで、人材の育成はもとより、卒業後の町内での就労、関係人口・交流人口の増加を目指してまいります。



また、まちの活力となる若者の定住促進を図るため、引き続き子育て支援に重点を置きながら若者の定住促進に向けた住宅整備を促進してまいります。

近年、地球温暖化による海水温などの気候変動がもたらす災害が全国的に多発しており、当町においても日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震による津波が想定され、国の特別強化地域に指定されていることから、町民の生命財産を守ることを第一優先に、災害時における津波一時避難場所の整備や避難先の備蓄庫などの設置を進めてまいります。

また、人口減少が続く中で、限られた予算を有効活用し、真に必要な事業を優先的に選択するとともに、常に改革、改善を探求し、事務効率を高めながら今できる最善の行政サービスの維持に努めてまいります。

## Ⅲ 主な施策の推進

次に、令和8年度におけるまちづくりについて、「第6次福島町総合計画」の「5つのまちづくりの目標」の実現に向け、次の重点施策に沿って申し上げます。

### 1 産業を活性化し、地域資源を活かすまちづくり

エネルギー・食料品価格の物価高騰に加え、長引く水産物の国内需要の低迷や、スルメイカ資源が回復傾向にある中、漁獲可能量の制限を受け、依然としてするめ加工原料の不足が続いており、水産加工業を取り巻く環境は大変厳しい状況にあります。

町の基幹産業である漁業にあっては、当町の浜の主力である養殖昆布漁業は安定した生産を維持しており、道内の天然昆布の不漁が続く中、水揚金額が9億7千万円に達して対前年比で約15%の増、ウニも2億1千万円に達して対前年比で約28%の増となり、いずれも一昨年に引き続いて、高い生産額となっております。

また、令和6年度から稼働した水産種苗生産等施設が採卵から種苗出荷まで順調に終えておりますが、海水温の影響により母藻の確保が年々厳しさを増している状況にあることから、関係機関と連携を図り、成熟誘導による種苗生産の確立などの試験を進め、養殖昆布などによる持続可能な前浜資源の確保を引き続き支援してまいります。

なお、養殖昆布のさらなる品質向上を図るため、昆布等共同利用施設の整備に向けて、漁業協同組合や関係機関と連携して進めてまいります。

漁業生産の基盤である漁港整備については、第3種福島漁港では引き続き天蓋施設の整備促進を図ります。